

農作物技術情報 第6号 果樹

発行日 令和4年 8月25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 早生種はすぐりもぎが基本です。病虫害では、予察と適期防除を徹底しましょう。なお、早生種は収穫期となっているので、農薬の使用基準を遵守し、ドリフトには十分注意しましょう。
- ◆ ぶどう 熟度は概ね平年並みと推察されます。食味を重視した適期収穫に努めましょう。

りんご

1 生育概況

各生育診断圃における8月1日時点の果実生育（横径）の調査結果は、県平均で平年比101～102%、前年比98～103%で、概ね平年並みの果実生育となりました（表1）。開花が平年より早かったため6月1日時点の果実生育は120%前後でしたが、その後は、6月の低温、7月の高温等により生育が停滞し平年並みになったと推察されます。

本年は、昨年の凍霜害のような県全域に及ぶ気象災害は見られなかったものの、4月下旬の降霜、5～6月の降雹、7月の高温による日焼け果、8月の大雨による冠水など一部地域に被害が認められます。被害を受けた果実を中心に見直し摘果を実施します。

表1 県内各生育診断圃における果実生育（横径）状況（8月1日現在）

（単位：mm）

市町村・地区・公所	ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (R4)	平年	比	前年 (R3)	比	本年 (R4)	平年	比	前年 (R3)	比
岩手県農業研究センター	73.2	70.3	104%	72.5	101%	65.9	63.7	103%	60.4	109%
盛岡市三ツ割	69.8	69.7	100%	70.6	99%	61.5	62.6	98%	59.3	104%
花巻市石鳥谷※2	71.7	71.1	101%	70.8	101%	64.8	62.5	104%	62.7	103%
奥州市江刺樽輪	65.1	66.8	97%	66.7	98%	58.8	63.6	92%	59.7	98%
一関市狐禅寺※3	68.6	69.9	98%	72.7	94%	64.2	60.9	105%	63.4	101%
陸前高田市米崎	71.4	69.4	103%	74.2	96%	65.2	62.7	104%	64.8	101%
宮古市崎山						71.7	63.7	113%	62.8	114%
二戸市金田一	71.2	68.8	103%	69.5	102%	63.5	62.9	101%	62.7	101%
県平均値※1（参考）	69.6	69.3	101%	70.8	98%	64.2	62.7	102%	62.2	103%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子（前定点）の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉（前定点）の値を使用。

2 栽培管理のポイント

(1) 早生種

- ア 葉摘み作業が遅れている場合でも、果皮に急に直射日光が当たると日焼けが発生しますので、徐々に葉摘みを進めます。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から実施します。
- イ 今年の満開日から見た収穫期の目安は表2のとおりですが、この目安は北上市成田の満開日より算出しており、県南の平場ではこの予想日より早まることも予想されます。
- ウ また、仙台管区気象台の1ヶ月予報（8/18発表）で向こう1か月の天候の見通しは、平均気温は高い、日照時間は少ないまたは平年並、降水量は平年並または多い見込みです。したがって、高温及び日照不足により着色が緩慢となり、着色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える可能性もあるため、過度な着色は期待せず、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めてください。
- エ すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期までの満開後起算日数	満開後起算日による収穫開始予想日	収穫期の果実品質の目安			
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数	カラーチャート指数※2
きおう	5月5日	115～125日	8/28～9/7	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5
つがる	5月5日	115～125日	8/28～9/7	13～14	12～14	3～3.5	2～3

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日

※2 つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(2) 中生種

- ア 「紅いわて」の収穫
 - (ア) 「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断すると、収穫時期が早くなってしまい、食味が劣り、品種の評価を落とすこととなります。食味を重視し、表3の目安を参考に収穫してください。
 - (イ) なお、系統販売等、輸送して販売する場合はデンプン指数2～2.5、直接販売する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫してください。

表3 「紅いわて」の収穫期の目安

満開日※	収穫期までの満開後起算日数	満開後起算日数による収穫開始予想日	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数
5月4日	130～140日	9/12～9/22	13以上	13以上	2～2.5

※: 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日

- イ 中生品種（「紅いわて」以外）の着色管理
 - (ア) 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適度な強さに葉を摘みます。
 - (イ) 着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないの、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(3) 晩生種

ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色や蜜入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病害虫防除および気象災害対策

(1) 病害虫防除

ア 7月28日に病害虫防除所からハダニ類の注意報が発表されています。園地をよく観察し、要防除水準に達している場合は、速やかに防除します。

イ 褐斑病（写真1）は数年前から、県内で広く見られています。発生が確認された場合は速やかに効果の高い薬剤で特別散布を実施してください。

ウ 黒星病については、昨年より少なくなっているものの発生は確認されています。他病害との同時防除を兼ねて、本病に効果のある予防剤を定期的に散布してください。その際には散布ムラがないよう使用基準内で十分な薬液量を丁寧に散布します。また降雨が予想される場合は、降雨前に散布を行ってください。

そして、園地を見回り、発生が確認された場合は見つけ次第、発病葉や発病果を摘み取り、土中に埋めるなど適正に処分してください。苗木など未結果樹での発生にも注意し、成木と同様に薬剤防除を徹底します。

エ 果樹カメムシ類による被害果が広く確認されています。園地をよく観察し、大量の飛来が確認された場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を実施します。

オ 早生品種の収穫期となりましたので、農薬の使用にあたっては、ドリフトや使用基準（倍率、収穫前日数等）に注意してください。



写真1 褐斑病の病徴（黒色虫糞状の粒々が特徴）

(2) 台風対策

これから、台風が多く発生する時期になります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果の発生や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じてください。

ぶどう

1 生育概況

8月15日時点の定点調査地点における「キャンベルアーリー」の果実品質は（表4）、平年と比較して、果径はやや小さいものの、果房はやや大きく、糖度は高めとなっています。このような状況から、熟度は平年よりやや進んでいるものと推察されます。

なお、向こう1か月の天候の見通しは、平均気温は高い、日照時間は平年並みまたは少ない、降水量は平年並みまたは多い見込みです。このため、高温により着色が緩慢となる可能性もありますので、過度な着色は期待せずに、食味を重視した適期収穫が重要です。

表4 「キャンベルアーリー」の生育状況(観測地点:紫波町)

調査年次	8月15日時点での生育				
	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(R4)	160	18.4	17.1	19.0	11.4
平 年	132	16.8	15.2	19.3	10.2
平年差・比	121%	110%	113%	98%	112%
前年(R3)	143	16.9	14.9	19.6	11.3
前年差・比	112%	109%	115%	97%	101%

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると、商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、過度に着色は期待せず適期収穫に努めてください。

※ 詳細は、7月28日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」を参照ください。

次号は9月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。